

医療機器プログラムに関する FAQ

ボーンナビ BSI(V2.2.0) FAQ	2
LANC@T (V2.9.1.x) FAQ.....	21
カーディオレポ (V1.2.0) FAQ.....	26
3DSRT ニューロ (V1.0.6) FAQ.....	27
(New) eZIS ニューロ (V1.1.1、V1.2.0) FAQ.....	28
(New) Amygo ニューロ (V1.0.0,V1.0.1) FAQ.....	33

PDRファーマ株式会社

本件についてご不明な点は、担当 MR または製品情報センターまでお問い合わせください。
(電話：0120-383-624 受付時間：9:00～17:00 (土曜・日曜・祝日・当社休業日を除く))

ボーンナビ BSI(V2.2.0) FAQ

- Q.01 V2.2.0 へバージョンアップ後に解析レポートを LANC@T の "エクスポート機能" を使用して、フォルダ経由で処理機にインポートできなくなった。 3
- Q.02 ボーンナビ BSI の解析中にマスクボタンを押下しても反応しない。 5
- Q.03 前バージョン(V2.1.7)のセッションファイルが読み込めない。 6
- Q.04 V2.1.7 と V2.2.0 のレポートレイアウトの変更について詳細を知りたい。 7
- Q.05 レポート内の「BSI(%)」の文字が切れてしまう。 12
- Q.06 ボーンナビ BSI をバージョンアップしたところ、「Bone session file load operation failed.」と表示され解析できない。 13
- Q.07 ボーンナビ BSI 解析後に「An error occurred while saving SC DICOM」が発生しレポートが保存できない。 14
- Q.08 レポートの患者名の DICOM ヘッダ情報が文字化けする。 18
- Q.09 3 検出器ガンマカメラ GCA-9300R の骨シンチ画像は解析できますか。 20

Q.01 V2.2.0 へバージョンアップ後に解析レポートを LANC@T の "エクスポート機能" を使用して、フォルダ経由で処理機にインポートできなくなった。

A.01

DICOM データの患者名に「^」が使用されている場合(例 "MYOUJI^NAMAЕ"), レポートを LANC@T からエクスポートし共有フォルダ経由でインポートできない処理機があります。この現象は、「^」記号が「空白」に変換され保存フォルダ/ファイル名に「空白」が入るためです（[本資料の「LANC@T FAQ」 p23](#)と同じ現象についての説明です）。

方法 1 – 3 のいずれかで対応をお願いします。

方法 1) LANC@T のエクスポートルールを使用する場合、フォルダ名/ファイル名には **\$ptid\$等の空白のない情報**を使用してください。

エクスポート設定

エクスポート設定

☐ エクスポート時に匿名化する

☐ ログファイルを作成する

デフォルトのエクスポート先

D:\temp\export

☒ エクスポートルールを使用する

フォルダ

ファイル名

\$ptid\$

命名ルール(下記の情報が使用できます)

PatientsName	: \$ptname\$
PatientsID	: \$ptid\$
PatientsSex	: \$ptsex\$
PatientsAge	: \$ptage\$
StudyDescription	: \$studydesc\$
StudyDate	: \$studydate\$
StudyTime	: \$studytime\$
SeriesDescription	: \$seriesdesc\$
SeriesDate	: \$seriesdate\$
SeriesTime	: \$seriestime\$
Modality	: \$modality\$

OK

キャンセル

方法 2) エクスポート時もしくはエクスポート後に、保存フォルダ名/ファイル名から空白を削除して下さい。

方法 3) 共有フォルダを介さず直接送信する方法(DICOM 通信)をご検討ください。

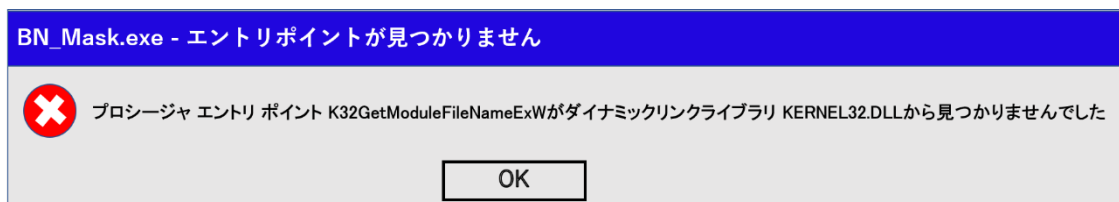
※この現象に対応するため、空白をアンダーバー「_」に変換する機能を追加した対応版 LANC@T をご用意しております。当社担当 MR までお問い合わせください。

Q.02 ボーンナビ BSI の解析中にマスクボタンを押下しても反応しない。

A.02

Windows の OS と LANC@T のバージョンをそれぞれご確認ください。

- LANC@T のバージョンが V2.9.1.0 以上である必要がありますので、LANC@T のバージョンをご確認ください。
- V2.2.0 の動作保証 OS は Windows 10 と 11 です。それ以下の OS で動作する場合がありますが、Windows VISTA、XP では新しいマスク処理に対応しておらず、以下のエラーメッセージが表示され動作しません。ご了承ください。



Q.03 前バージョン(V2.1.7)のセッションファイルが読み込めない。

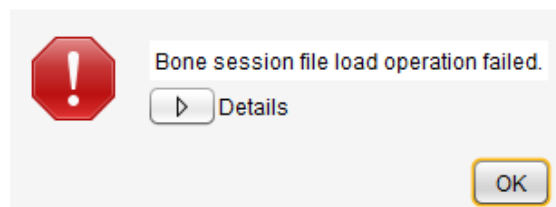
(セッションファイルとは、「解析中のコメント」、「ホットスポットのリスク(赤/青 判定)」等の情報が保存されたファイルです。)

A.03

方法 1 – 2 のいずれかで対応をお願いします。

方法 1) V2.1.7 と V2.2.0 ではセッションファイルの構造が異なるため、互換性がございません。今までのセッション情報を活用する場合は V2.1.7 を引き続きご利用ください。

下図のエラーメッセージについては OK ボタンを押す事で、セッション情報がないものとして解析されます。



発生するエラーメッセージ

方法 2) V2.1.7 のセッションファイルを引き続きご利用される場合はお手数ですが、過去データのレポートを参考に V2.2.0 で解析し、改めてセッションファイルを保存してください。

V2.2.0 をインストールする前に、V2.1.7 をアンインストールして頂く必要がありますが、アンインストール後に一部のフォルダ/ファイルが残ってしまいますので、以下の”BONENAVI_BSI”フォルダを削除してからインストールしてください。

(既定のインストール先 : C:¥FRI¥LANC@Tprog¥BONENAVI_BSI)

なお、V2.1.7 に戻して使用する場合を考え、上記の BONENAVI_BSI フォルダ内にある”session”フォルダは、削除する前にバックアップ（コピー）頂くことをお勧め致します。

[なお、本資料の p13 にも関連情報を記載しています。](#)

Q.04 V2.1.7 と V2.2.0 のレポートレイアウトの変更について詳細を知りたい。

A.04

バージョンアップに伴い、下記の通りレポートのレイアウトを変更しております。ご了承ください。

- ① 全レポート共通
 - 画像右下に使用しているカラーマップ名を表示しました (図 1※)。
- ② Summary レポート (図 1)
 - CADx レポートの名称を Summary レポートに変更しました。
 - ΔBSI を追加し、レポートテキストを画像下部に移動しました。複数解析時は、例数によりコメント欄が小さくなることがあります。また、BSI と Hsn のグラフは 1 例 (検査) でも常に表示するように変更しました。

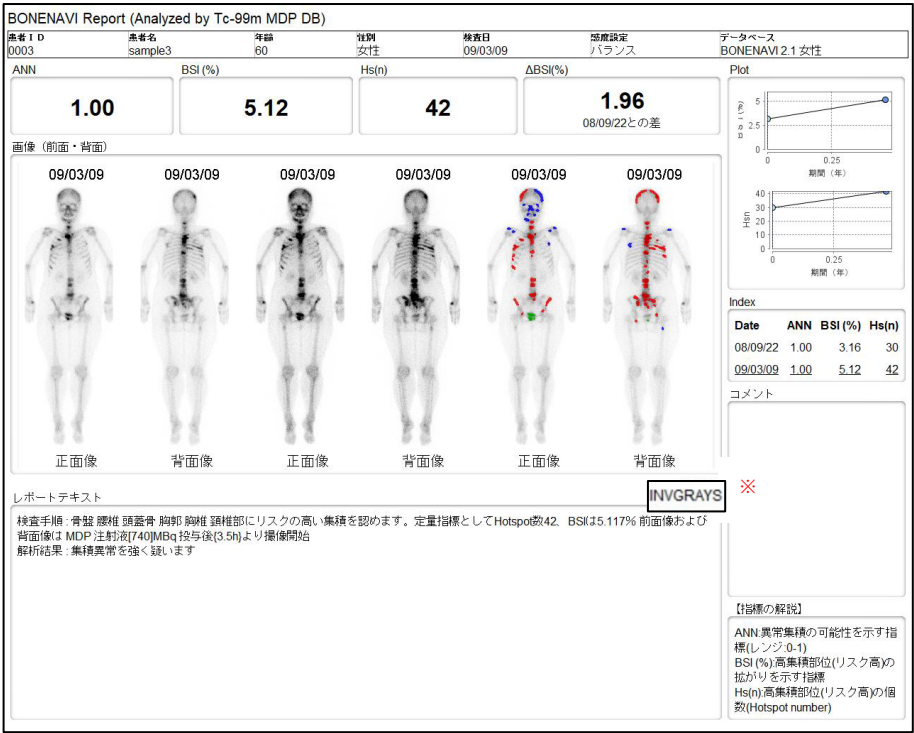


図 1

③ Images-レポート

- V2.1.7 は複数例解析時の出力レポートは正面像/背面像それぞれ 1 枚でしたが、V2.2.0 では 6 例以上の場合、画像を出来るだけ大きく表示/印刷されるようにそれぞれ 2 枚で出力されるように、仕様を変更しました。

➤5 例までは、V2.1.7 と V2.2.0 で変更はありません。（図 2）

➤6 例以上の場合、画像が小さくなってしまったため、次ページ図 3 のように 2 枚に分割しました。

（5 例の場合） V2.1.7 と V2.2.0 で変更はありません。

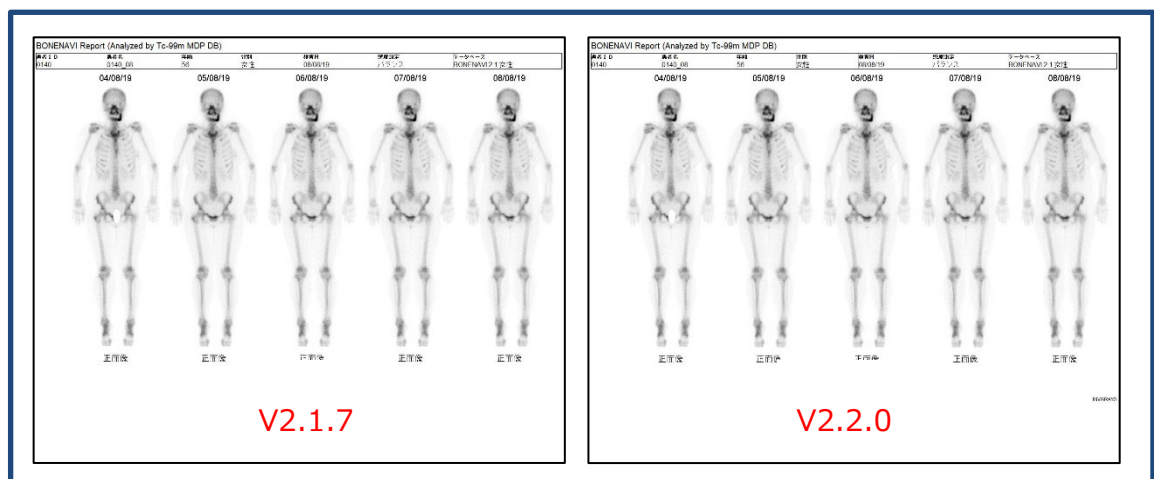


図 2 （例として正面像のみのレポート）

➤ (6 例以上の場合)

全身画像を出来るだけ大きく表示する為、6 例では (1 枚目、2 枚目) が (3 画像, 3 画像) に 2 分割されます。7 例以上では 7 例 (4, 3)、8 例 (4, 4)、9 例 (5, 4)、10 例 (5, 5) となります。

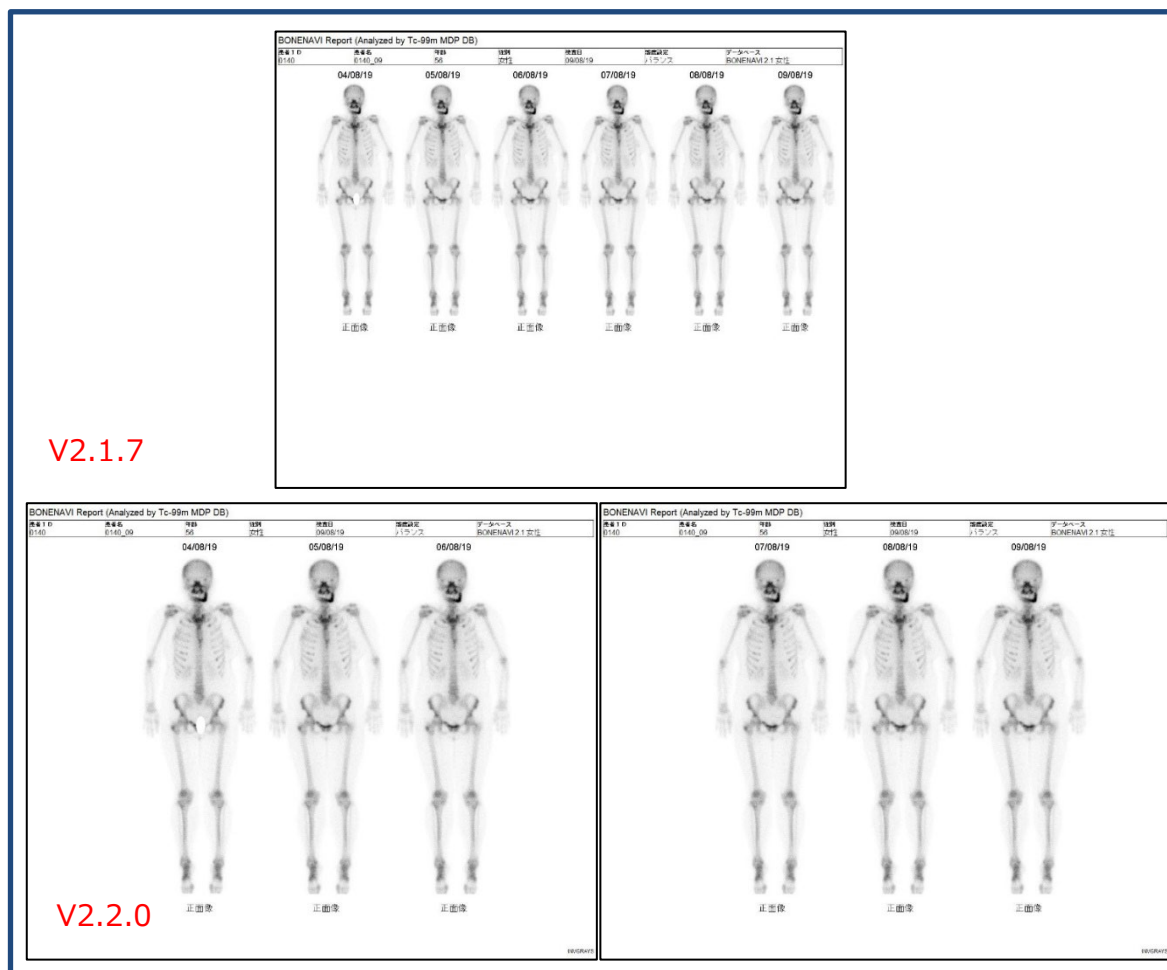
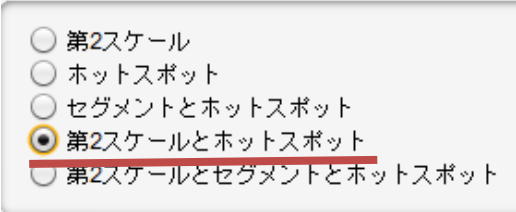


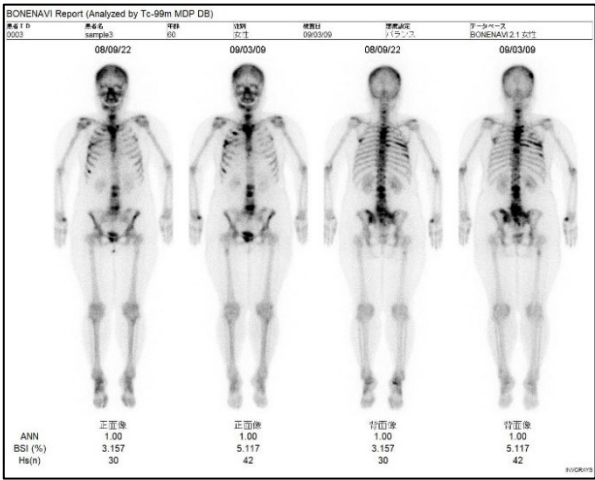
図3 (例として正面像のみのレポート)

④ Images-Info レポート

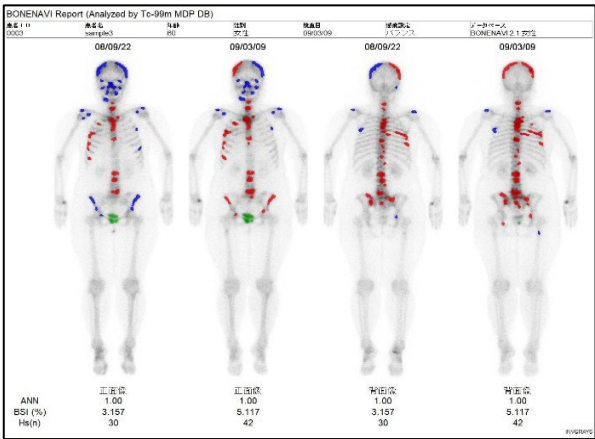
- レイヤー「第 2 スケールとホットスポット」を選択した場合（V2.2.0 で新規追加レイヤー、図 4）、「第 2 スケール」のレポートと「ホットスポット」のレポートが作成されます（図 5）。



(2 例の場合) 図 4



第 2 スケール



ホットスポット

図 5

- レイヤー「第 2 スケールとセグメントとホットスポット」を選択した場合（V2.2.0 で新規追加レイヤー、図 6）も同様に、「第 2 スケール」のレポートと「セグメントとホットスポット」のレポートが作成されます。

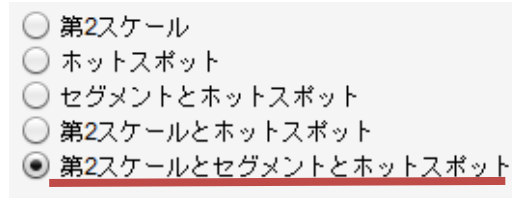
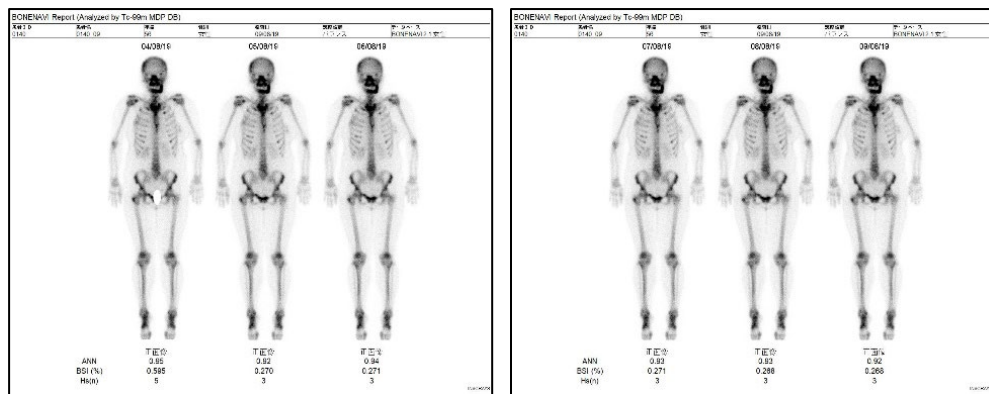


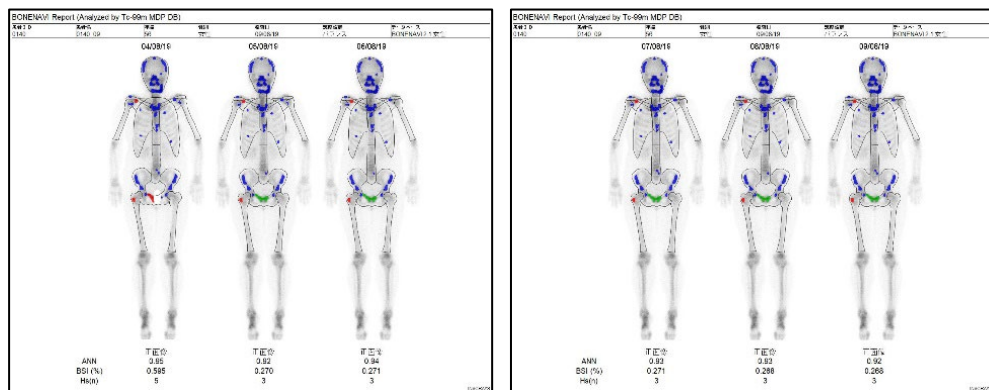
図 6

- 「Images-Info レポート」でも、6 例以上の場合、③ 「Images レポート」と同様に 2 枚に分割されます。6 例以上では、“第 2 スケール”で 4 枚のレポート（正面像 2 枚、背面像 2 枚），“ホットスポット（または、セグメントとホットスポット）”で 4 枚のレポート（正面像 2 枚、背面像 2 枚）が作成されます（図 7）。

(6 例の場合:正面像の表示)



第 2 スケール



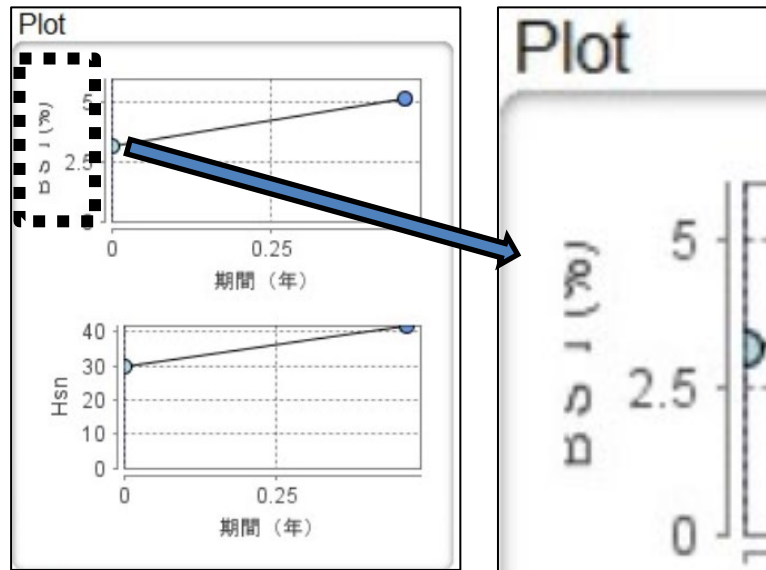
セグメントとホットスポット

図 7

Q.05 レポート内の「BSI(%)」の文字が切れてしまう。

A.05

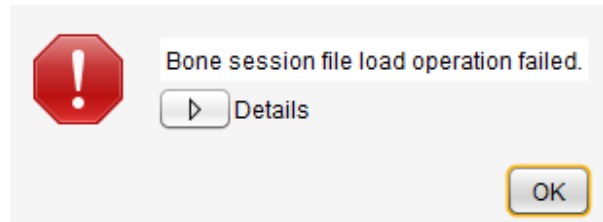
BSI のグラフについて、縦軸の値によって文字が切れてしまうケースがあります。ご迷惑をお掛けいたしますがご了承ください。



Q.06 ボーンナビ BSI をバージョンアップしたところ、「Bone session file load operation failed.」と表示され解析できない。

A.06

旧バージョンのセッションファイルがフォルダ内に残っていると本エラーが表示されます。



また、上記のエラーメッセージダイアログの OK ボタンを押して先に進んだ場合、セッション情報がないものとして解析された結果が出力されます。

旧バージョンのセッションファイルは、新しいバージョンのプログラムでは対応していません。削除してください（[本資料の p6 に関連情報を記載しています](#)）。

（既定のインストール先：C:\¥FRI¥LANC@Tprog¥BONENAVI_BSI¥session）

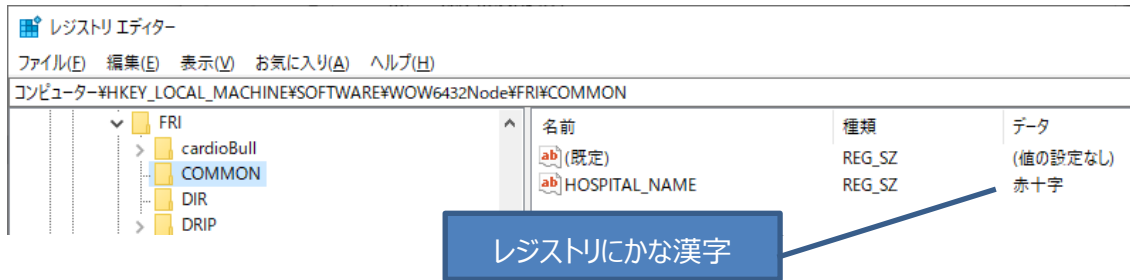
なお、V2.1.7 に戻して使用する場合を考え、BONENAVI_BSI フォルダ内にあるセッションフォルダは、削除する前にバックアップ（コピー）頂くことをお勧め致します。

（既定のインストール先：C:\¥FRI¥LANC@Tprog¥BONENAVI_BSI）

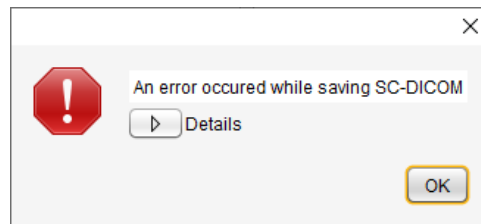
Q.07 ボーンナビ BSI 解析後に「An error occurred while saving SC DICOM」が発生しレポートが保存できない。

A.07

入力データに病院名がセットされておらず、レジストリにセットされている病院名に「かな漢字」が使用されている場合にエラーが発生します。



(※) PDR 製プログラムの病院名が保存されている場所(HOSPITAL_NAME)のレジストリ画面



特定の文字コードでエラーが発生します。以下の漢字等で使用した場合、発生が確認されています。

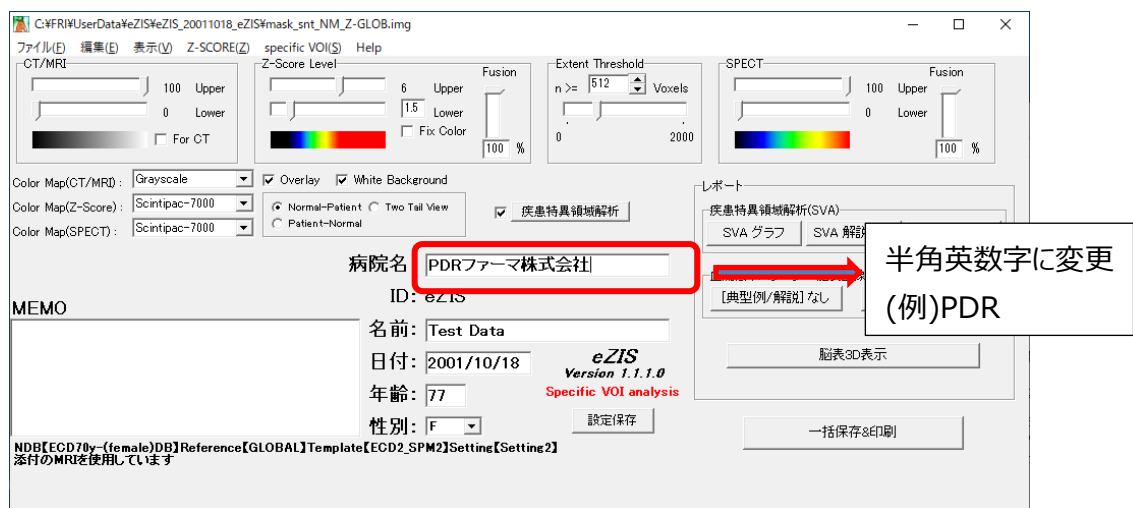
例：「十」、「圭」、「申」、「貼」、「能」、「表」、「予」、「禄」

以下の方法 1 で対応可能です。

方法 1 が利用できない場合は、方法 2 のでも変更可能です。

- 方法 1) eZIS ニューロや smartMIBG ハート等、他の PDR 製認証プログラム上で病院名を半角英数字に変更してください（下図の赤枠内を半角英数字に変更し設定保存してください）。

eZIS ニューロのビューワ画面



smartMIBG ハートの設定画面

Settings

全般

病院名 PDRファーマ株式会社 → 半角英数字に変更
(例)PDR

カラーマップ #Default ☐ Reverse

☐ リアルタイムモードを有効にする

☐ 起動時にグリッド線を表示する

ROIの色 ☐ cWhite

グリッド線の色 ☐ cWhite

補正

Washout Rate 補正有無

バックグラウンド補正(+), 減衰補正(-)

☒ H/Mの補正をする

TEST TEST2

名称 TEST

変換係数 0.55

補正先 標準MEのみ

レポート

背景色 ☒ 白 ☐ 黒

DICOM保存様式

☐ 縦 ☒ 横

レポートへの正常参考値表示

☒ 表示する

Early 1.9 以上

Delayed 1.9 以上

核医学会(LE)

ここに入力してください

Washout Rate ** 以下

DICOM情報

Series Description SmartMIBG[SC]

Series Number

Save Cancel

- ※1 当社のプログラムでは、この病院名の設定内容を共通で使用しています。変更した内容は、他のプログラムでも反映されますので、ご注意ください。
- ※2 また、病院名を設定・変更できるプログラムには、脳画像解析「eZIS ニューロ、3DSRT ニューロ、Amygo ニューロ」、心臓解析「smartMIBG ハート」があります。

方法 2) レジストリエディタで病院名を半角英数字に変更してください。

C:¥Windows¥regedit.exe をダブルクリックしてレジストリエディタを起動します。

(64bit PC の場合)

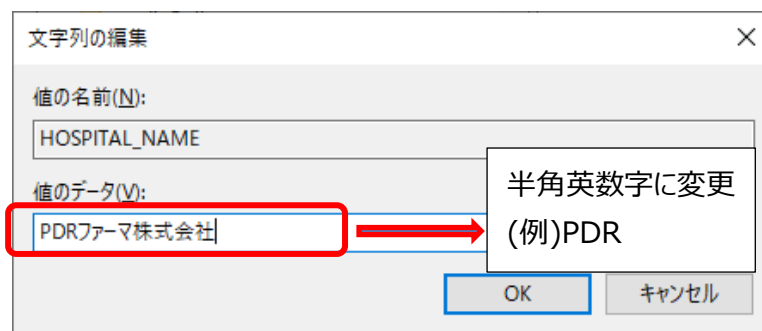
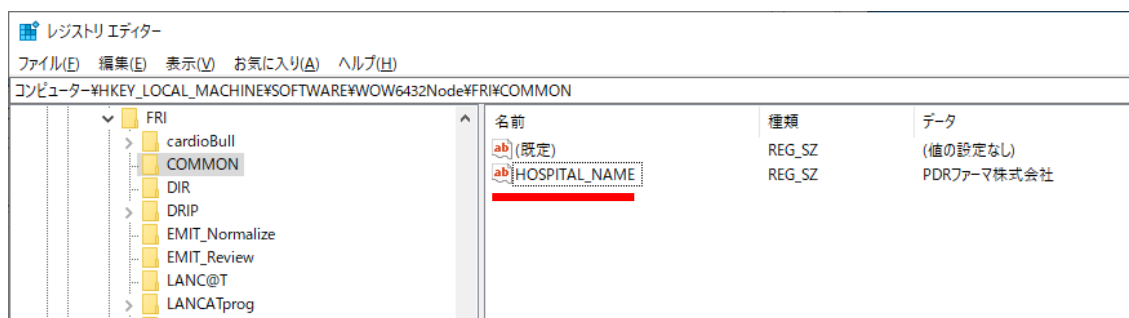
HKEY_LOCAL_MACHINE¥SOFTWARE¥WOW6432Node¥FRI¥COMMON を

(32bit PC の場合)

HKEY_LOCAL_MACHINE¥SOFTWARE¥¥FRI¥COMMON フォルダを開きます。

HOSPITAL_NAME の項目をダブルクリックし、値のデータを半角英数字に変更し OK ボタンを押して下さい。

ご不明な場合は当社担当 MR までお問い合わせください。



Q.08 レポートの患者名の DICOM ヘッダ情報が文字化けする。

A.08

患者名に「かな漢字」が入っている為に文字化けが起きています。

解析前に LANC@T の Edit 機能で患者名を次ページ（患者名の編集）の手順に従って文字化け部分を削除してください。

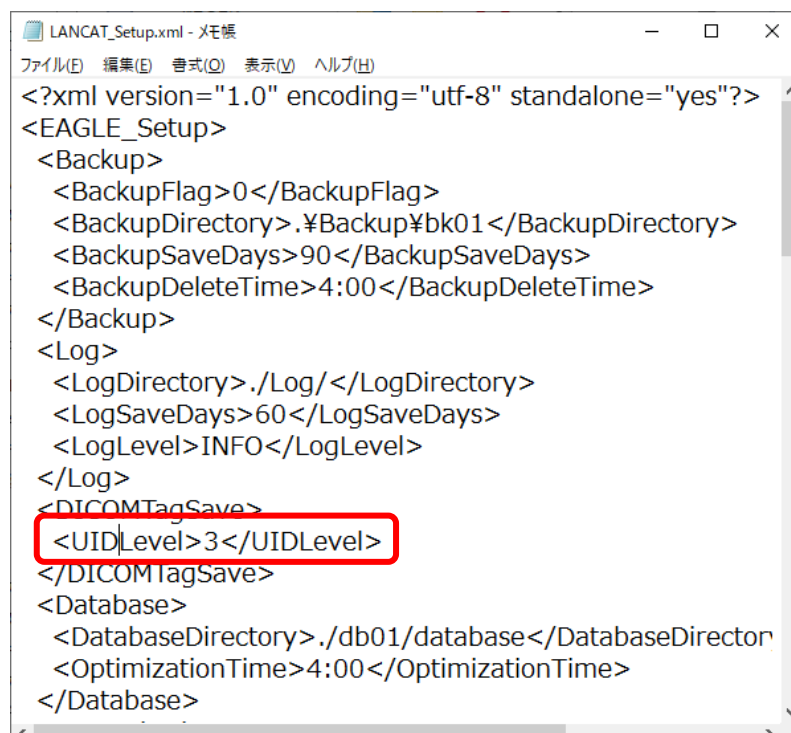
なお、初めて患者名を編集する前に、一度だけ LANC@T の設定を変更する必要があります。以下の（前処理）の手順を実施してください。

（前処理）

注意：LANC@T を終了した状態で行ってください。

LANC@T のインストール先フォルダ（既定のインストール先：C:\¥FRI¥LANC@T）を開き、LANCAT_Setup.xml をメモ帳等で開きます。

15 行目にある<UIDLevel>1</UIDLevel>の 1 を 3 に書き換え、上書き保存します。



※UID レベルを 1 から 3 に変更する事で名前を変更しても同じ UID で保存されます。

(患者名の編集)

LANC@T 上で該当データを選択し、Edit ボタンを押し下図のように、患者名の「かな漢字部分」を削除して Save してください。

The screenshot shows the LANC@T software interface. At the top, there are navigation buttons for 'Patient', 'Study', and 'Series'. Below this is a table with columns: ID, Name, Age, Sex, Modality, Study, Series, Date, Time, and ImageID. The table contains several rows of patient data. Below the table, there is a detailed patient information panel for a selected patient. This panel includes a 'Frame' section on the left with a color scale and a 'Patient Information' section on the right with various fields like 'PerformingPhysiciansName', 'NameOfPhysiciansReadingStudy', 'OperatorsName', 'AdmittingDiagnosesDescription', 'PatientsName', 'PatientsID', 'BirthDate', 'PatientsBirthTime', 'PatientsSex', 'OtherPatientIDs', 'OtherPatientNames', 'PatientsAge', 'EthnicGroup', 'Occupation', 'AdditionalPatientHistory', and 'PatientComments'. The 'PatientsName' field is highlighted with a red box, and the 'Edit' button is also highlighted with a red box.

※LANC@T のヘッダ情報欄は、かな漢字が文字化けして表示されません。

図：Edit 機能

The diagram illustrates the process of editing a patient's name. It shows a table with patient information, where the 'PatientsName' field is highlighted with a red box. An arrow points down to a second table where the 'PatientsName' field has been updated to 'SEI' MEI'.

図：不要部分の削除

最初の「＝」より後ろを削除して Save してください。

Q.09 3 検出器ガンマカメラ GCA-9300R の骨シンチ画像は解析できますか。

(GCA-9300R : キヤノンメディカルシステムズ (株) 製の 3 検出器ガンマカメラ)

A.09

“GCA-9300R”から出力された画像データは、以下に記載する手順で LANC@T に取り込み、BONENAVI (V2.2.0)で解析することができます。

なお、データ収集の際は、前面像 (ANT) と後面像 (POST) を別々に撮像してください。

ケース 1) ” GCA-9300R v2.2 以降”の場合

- ① 標準搭載されている「検出器分離」というアプリケーションを使用してデータを出力してください。
- ② 上記方法で出力したデータを、[WB_LANC@T.exe] を介して LANC@T へ取り込み、BONENAVI で解析してください (BONENAVI 取扱説明書 p12 「4.1 データを取り込む」参照)。

ケース 2) 「検出器分離」アプリケーション未対応の場合

BONENAVI で設定を変更して頂くことで、解析が可能になります。設定に関する詳細な説明書をご用意しています。当社担当 MR までお問い合わせください。

なお、キヤノンメディカルシステムズ (株) 様より、バージョンアップキットがオプションで用意され、このオプションを追加することで「検出器分離」アプリケーションに対応可能のようです。詳細はキヤノンメディカルシステムズ (株) 様にお問い合わせください。

LANC@T (V2.9.1.x) FAQ

LANC@T(V2.9.1.x) には、"Microsoft .NET Framework 3" 用の V2.9.1.0 と "Microsoft .NET Framework 4"用に対応した V2.9.1.1 があります。

Q.10 P D R パッケージに付属される LANC@T v2.9.1.1, および医療機器プログラム

が Windows 7 以下の PC で動作しない。..... 22

Q.11 V2.2.0 へバージョンアップ後に解析レポートを LANC@T の "エクスポート機能"

を使用して、フォルダ経由で処理機にインポートできなくなった。..... 23

Q.12 バージョンアップ後、非 DICOM データが取り込めなくなった。..... 25

Q.10 P D R パッケージに付属される LANC@T v2.9.1.1, および医療機器プログラムが Windows 7 以下の PC で動作しない。

A.10

最新の医療機器プログラム（「ボーンナビ BSI 2.2.0」等）及び LANC@T(V2.9.1.1)の推奨 OS は Windows10 と 11 になります。

LANC@T(V2.9.1.1)は、"Microsoft .NET Framework 4"（以下.NET4）を利用していますが、Windows10, 11 では、標準で".NET 4"がインストールされ、有効化されています。ただし、この機能が有効化されていない場合等は問題が発生しますので、ご施設の PC 環境をご確認ください。なお、動作保証対象外の環境ですが、Windows7 以下の旧 OS 上で動作させる場合には、".NET4"のインストールが必要となります。具体的な方法につきましては、Microsoft の情報 WEB ページもしくは当社担当 MR までお問い合わせください。

Microsoft の情報 WEB ページ

<https://www.microsoft.com/ja-jp/download/details.aspx?id=17718>

Q.11 ボーナビ BSI V2.2.0 へバージョンアップ後に解析レポートを LANC@T の “エクスポート機能” を使用して、フォルダ経由で処理機にインポートできなくなった。

A.11

LANC@T から DICOM データをエクスポートした際に、DICOM データの保存フォルダ/ファイル名に「空白」が含まれる場合に共有フォルダ経由でインポートできない処理機があります（[本資料の「ボーナビ BSI FAQ」 p3](#)と同じ現象についての説明です）。

方法 1 – 3 のいずれかで対応をお願いします。

方法 1) LANC@T のエクスポートルールを使用する場合、フォルダ名/ファイル名には **\$ptid\$等の空白のない情報**を使用してください。

エクスポート設定

エクスポート設定

☐ エクスポート時に匿名化する 項目設定

☐ ログファイルを作成する

デフォルトのエクスポート先
D:\temp\export

☒ エクスポートルールを使用する

フォルダ

ファイル名
\$ptid\$

命名ルール(下記の情報が使用できます)

PatientsName	: \$ptname\$
PatientsID	: \$ptid\$
PatientsSex	: \$ptsex\$
PatientsAge	: \$ptage\$
StudyDescription	: \$studydesc\$
StudyDate	: \$studydate\$
StudyTime	: \$studytime\$
SeriesDescription	: \$seriesdesc\$
SeriesDate	: \$seriesdate\$
SeriesTime	: \$seriestime\$
Modality	: \$modality\$

OK キャンセル

方法 2) エクスポート時もしくはエクスポート後に、保存フォルダ名/ファイル名から空白を削除して下さい。

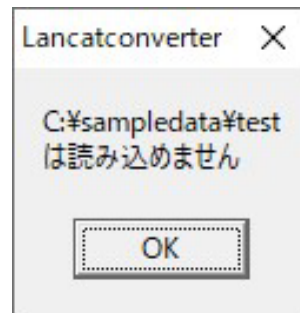
方法 3) 共有フォルダを介さず直接送信する方法(DICOM 通信)をご検討ください。

※この現象に対応するため、空白をアンダーバー「_」に変換する機能を追加した対応版 LANC@T を**ご用意しております**。当社担当 MR までお問い合わせください。

Q.12 バージョンアップ後、非 DICOM データが取り込めなくなった。

A.12

本現象は、LANC@T (V 2.9.1.0 及び V2.9.1.1)において、DICOM 形式とは異なる 非 DICOM (non-DICOM) の一部形式※のデータを取り込めないという問題です。以下のようなエラーメッセージが表示され、LANC@T に取り込むことができません。



DICOM 形式のデータをご利用の施設では、この現象は発生しません。

なお、LANC@T (V 2.9.1.0 及び V2.9.1.1)に含まれている、非 DICOM データの入出力を行うプログラム(FileIO.dll)が原因と判明しており、この問題に対応した修正プログラムを用意しております。問題が発生する場合は、当社担当 MR までお問い合わせください。

※本現象が発生する核医学画像処理機についての情報は、担当 MR までお問い合わせください。

カーディオレポ (V1.2.0) FAQ

Q13 入力データの短軸像でスライス枚数が、Rest と Stress で異なる場合に、cardioMUSk 機能※でフィルター処理を行うと「不正な浮動小数点演算命令」のエラーが発生する場合があります。

A13. Rest 画像のフィルター処理における、メモリへの不正なアクセス等のバグです。

«注意»

- Rest と Stress の枚数が異なっても、上記エラーが発生しない場合がありますが、内部的な処理が完了せず問題が発生する場合があります。
- cardioMUSk 機能を使用していない場合、問題は発生しません。
- スライス枚数が Rest と Stress で同じ場合、cardioMUSk 機能は、正しく処理されます。
- 処理機のワークフロー内で cardioMUSk の処理を行った場合、問題は発生しません。

以下のいずれかの方法で対応が可能です。

方法 1) 処理機で再構成する際にスライス枚数が Rest と Stress で同じになるように再処理してください。

方法 2) PDR 製汎用画像処理プログラム DRIP 等を使用して、対象データのスライス枚数を調整してください。

DRIP のプログラムは日本放射線技術学会の HP からダウンロードできます。

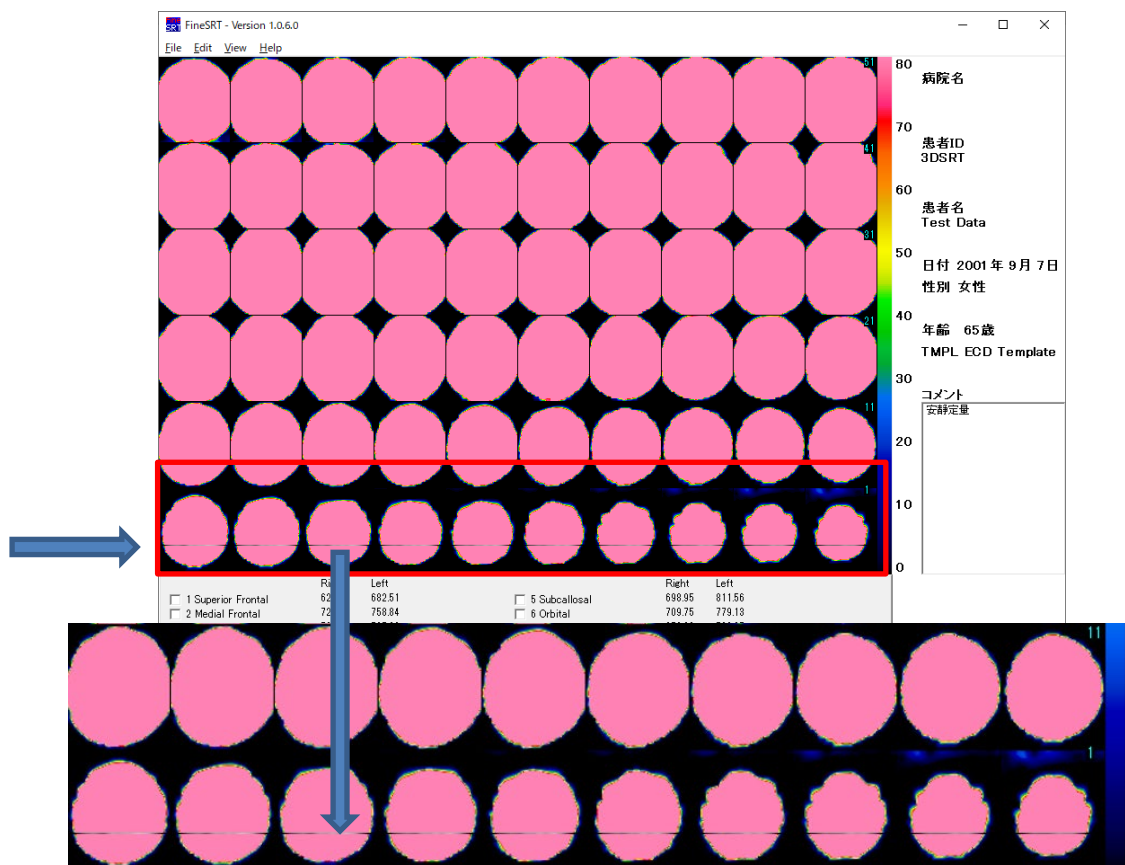
(<http://nm.jsrt.or.jp/blog.html>)

使用法については当社担当 MR にお問い合わせください。

※「cardioMUSk 機能」とは、画像上の心外集積を除去する等の目的で実施する、マスク処理、平滑化処理のことです。

3DSRT ニューロ (V1.0.6) FAQ

Q14 FineSRT の結果画面にスジ状の線が表示されることがある。(下図参照)



A14 V1.0.6 の不具合になります。最新の V1.0.7 で対応済みですのでバージョンアップをお願い致します。当社担当 MR までお問い合わせください。

(New) eZIS ニュー□ (V1.1.1,V1.2.0) FAQ

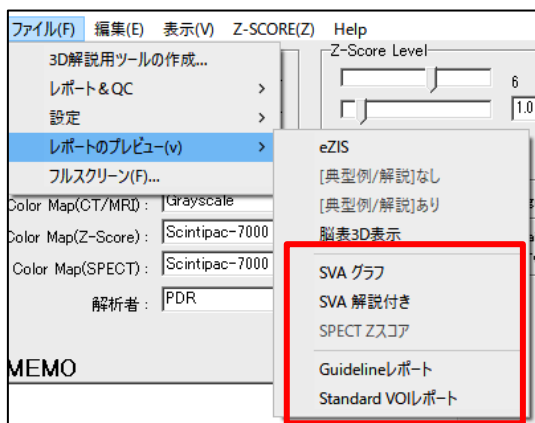
- Q15 eZIS ニュー□ (v1.1.1) においてレポートを印刷すると一部画像が消えて印刷される
事がある。(PC 上では正常に表示されている。印刷時のみの現象) 29
- Q.16 **(New)** eZIS ニュー□ (v1.2.0) の Invert モードで解析後に SVA や Guideline
レポートが選択できる状態になっており不正確なレポートが表示されてしまう。..... 30
- Q.17 **(New)** eZIS_viewer (v1.2.0.) で Guideline レポート・スタンダード VOI レポ
ートを印刷すると、A4 縦の用紙に、横表示で右半分が切れて印刷される。..... 32

Q15 eZIS ニュー□（v1.1.1）においてレポートを印刷すると一部画像が消えて印刷される事がある。（PC 上では正常に表示されている。印刷時のみの現象）

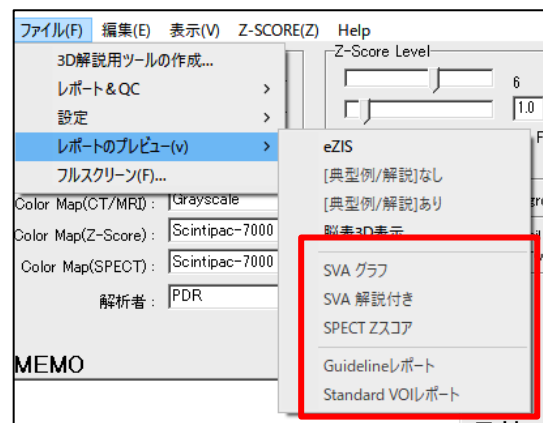
A15 レポートを直接印刷する時の不具合です。JPEG 等で保存したレポートを印刷することで、対応可能です。

Q.16 eZIS ニューロ (v1.2.0) の Invert モードで解析後に SVA や Guideline レポートが選択できる状態になっており不正確なレポートが表示されてしまう。

【現象】 eZIS ニューロ (v1.2.0) において Invert モードで解析後に、本来は SVA や Guideline レポート等のプレビューが表示できないところ、メニューがアクティブ状態になり不適切な結果が表示されてしまいます (図 1) (図 4)。一度プレビューを表示すると、メニューがグレイアウトして再度の表示ができなくなり正常の状態に戻ります (図 2)。なお、本現象について ezis_viewer.exe を単独で起動した場合は、本来の仕様通り、プレビューメニューは非アクティブとなります (図 2)。

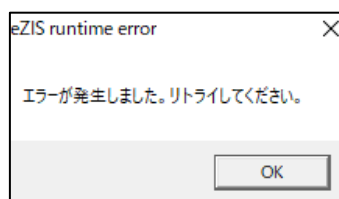


(図 1 問題の現象)

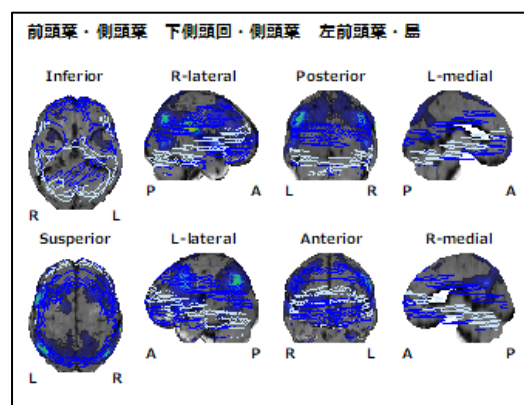


(図 2 Invert モード時の正常のプレビューメニュー)

解析直後に図 1 の赤枠内メニューを選択した場合 “エラーが発生しました。リトライして下さい。”、と表示されます (図 3)。“OK”をクリックするとレポート上に不適切な SVA の VOI が表示されます (図 4)。



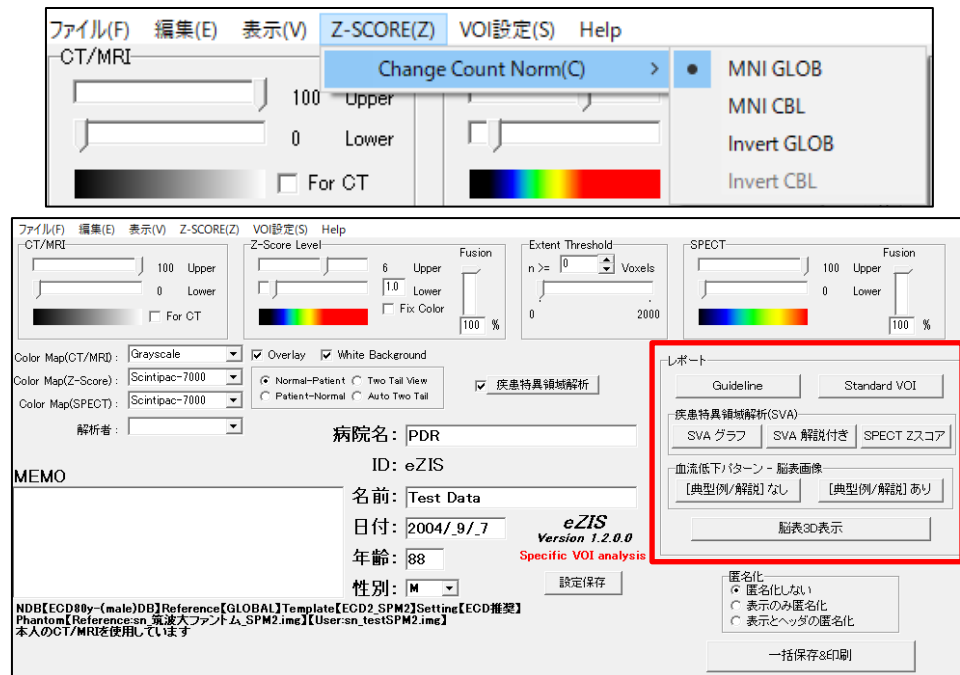
(図 3 エラー表示)



(図 4 不適切な SVA-VOI)

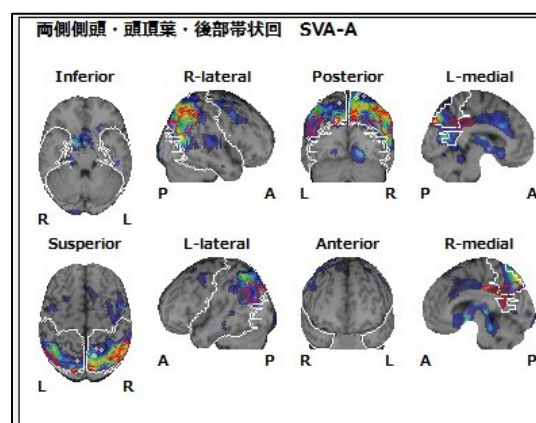
A.16 Invert 解析を行った場合、メニューからの SVA や Guideline レポート等の VOI を使用したレポートのプレビューは選択しないようにお願いします。

SVA レポートを表示する場合、Z-SCORE→Change Count Norm メニューから【MNI GLOB】を選択してからレポートのプレビューをしてください（図 5）。



（図 5 コントロールパネル）

赤枠内（図 5）のレポートが選択可能になり、SVA の VOI も正しく表示されます。（図 6）



（図 6 正しい SVA-VOI）

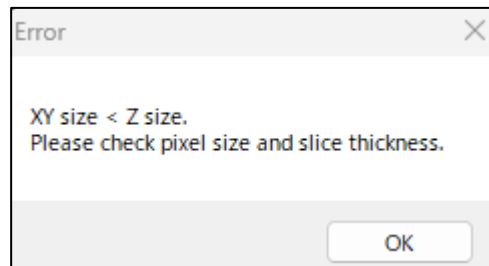
Q.17 eZIS_viewer (v1.2.0) で Guideline レポート・スタンダード VOI レポートを印刷すると、A4 縦の用紙に、横表示で右半分が切れて印刷される。

(プリンターの設定で印刷の向きを縦・横で切り替えても、印刷向きは縦に固定される。)

A.17 レポートを直接印刷する時の不具合です。JPEG 等で保存したレポートを印刷することで対応可能です。

(New) Amygo ニューロ (V1.0.0,V1.0.1) FAQ

Q.18 Amygo ニューロでアミグダラ画像を読み込むと特定の機器で ” xy size < z size. Please check pixel size and slice thickness.” のメッセージが表示され解析できない (図 1)。



(図 1 エラーメッセージ)

A.18. Z 方向の視野が XY 方向の視野より大きいデータは、スライス厚の情報を間違えて認識している可能性があるため、解析に進めない仕様になっている為です。スライス厚が正しい場合は、LANC@T にデータを読み込む際にスライス数を減らして、xy の視野より z の視野の方が小さくなるように調整してください。

スライス数を減らす方法

処理機側で再度フレーム数を調整してデータを取り込んでください。

- ① エラーが出るデータをあらかじめ LANC@T から削除してください。
- ② 処理機側でフレーム数を減らしてから再度 LANC@T に取り込んでください。
- ③ Amygo ニューロを実行し現象を確認してください。

処理機でフレーム数の調整が行えない場合は、下記の方法を試してください。

- ① LANC@T からエラーが出るデータをあらかじめ削除してください。
- ② データを取り込む際に、フォルダ内の連続するファイル名の最初又は、最後の数フレームをフォルダ内から削除して LANC@T に取り込んでください。(次ページ補足資料参照)
- ③ Amygo ニューロを実行し現象を確認してください。

(補足資料)

xy の視野=マトリックス×ピクセルサイズ (mm)、z の視野=フレーム数×スライス厚 (mm) を求める方法

- LANC@T のデータリスト画面と edit 画面から画像の情報を得る

LANC@T データリスト画面

ID	Name	Age	Sex	Modality	Study	Series	Date	Time	ImageID	Matrix	Frame	ImageType	sv.Da	Edit
1	Demo	Demo	89y	M	PT	Florbetapir	TEST	2019/09/12	11:20:42	168*168	83	ORIGINAL*PRIMAR		?

Matrix	Frame	Image
168*168	83	ORIGINAL

edit 画面

XY のマトリックス

Z のフレーム数

[0020,0010]	StudyID	
[0020,0011]	SeriesNumber	4
[0020,0013]	InstanceNumber	1
[0020,0037]	ImageOrientation	1*0*0*0*1*0
[0020,4000]	ImageComments	CT_rec_FOV300
[0028,0008]	NumberOfFrames	
[0028,0010]	Rows	168
[0028,0011]	Columns	168
[0028,0030]	Y_Pixel ※	2.03642
[0028,0030]	X_Pixel ※	2.03642

XY のピクセルサイズ

[0010,21B0]	AdditionalPatientHistory	
[0010,4000]	PatientComments	
[0010,0020]	PatientsSize	
[0010,0030]	PatientsWeight	
[0018,0015]	BodyPartExamined	
[0018,0050]	SliceThickness ※	2
[0018,0060]	DistanceBetweenSlices	
[0018,1000]	AcquisitionDate	
[0018,1142]	RadialPosition	
[0018,1143]	ScanArc ※	
[0018,1242]	ActualFrameDuration	1200000

Z のスライス厚

- ① 対象のデータを選択してからメイン画面の Matrix と Frame の欄の数値をメモする。
- ② Edit 画面の [0028,0030] の X(Y) Pixel の数値をメモする。(ピクセルサイズ)
- ③ [0018,0050] の Slice Thickness (スライス厚) の数値をメモする、
- ④ マトリックス × ピクセルサイズから XY の視野を求める。
- ⑤ フレーム数 × スライス厚から Z の視野を求める
- ⑥ XY の視野 > Z の視野になるようにフレーム数を調整する。
- ⑦ 残ったフレームを LANCA@T にインポートする。
- ⑧ 解析できるか確認する。